

北海道博物館協会 学芸職員部会ニュース

第 82 号 2014 年（平成 26）8 月 20 日

発行：北海道博物館協会学芸職員部会
編集：学芸職員部会事務局 根室市歴史と自然の資料館
〒087-0032 根室市花咲港 209 Tel/FAX. 0153-25-3661

学芸職員部会事務局長 就任にあたって

学芸職員部会 事務局長
根室市歴史と自然の資料館 猪熊樹人

平成 25 年度より事務局を預かっております根室市歴史と自然の資料館の猪熊樹人です。この場を借りて、私が学芸職員部会に入会したきっかけについて振り返りたいと思います。

私は中途採用でしたので平成 17 年 6 月に根室市に採用され、翌月には斜里町で開催された学芸職員部会に参加していたと思います。その時は学芸職員部会がどういう会かわからないまま参加していました。学生の頃から色々と教えて頂き、当時、稚内市の学芸員だった内山真澄さんに連れられ、懇親会の席上で酒をついで回り、北海道各地の学芸職員の方々に挨拶させて頂いたのを覚えています。また私の前任で現在、札幌大学の川上淳先生も部会の会計をされていたということもあり、それ以降、毎年この部会には参加することができていました。

ここ数年、道内の学芸職員の世代交代が進み、部会の構成も変わってきたのではないかと思います。それにつれ部会の活動も変わってきており、年一回の研修会・総会、部会ニュースの発行といった従来の活動に加え、助成事業、ホームページの管理・更新、各分会の活動などが加わっています。こうした部会の事業以外に、部会長、副部会長は所属館でも中核的な立場にある方々ですが、年数回の北海道博物館協会の役員会や事業にも参加され、部会と親会をつなぐ役割を担っています。

事務局の業務量も増えていますが、事務局の仕事は中岡前部会長や澤田副部会長が確立されているし、ホームページ関係は栗原事務局次長に負っています。部会ニュースも 3 名で編集にあっています。また、実技を伴う研修事業についても受け入れてくれる自治体や各ブロックのご支援がなければ、到底運営することができません。このように部会の仕事は大勢で分担して進めています。部会の活動をより充実するためにも会員みなさんのご参加やアイデアが不可欠です。今後ともご協力のほどよろしくお願いします。

平成 25 年度 技術研修会を開催しました。～その 2～

*81 号からの続きで掲載いたします

☆総合技術研修「展示ディスプレイ活用法～身近なもので工夫しよう」

この研修では、常設展や特別展などで、パネルや展示物、映像などを作成する際に身近なものを効果的に使用する方法について、各館で工夫しているアイデアを出し合いました。研修参加者全員がスクリーンに写真をうつしながら説明し、実際にツールを用いて紹介しました。以下に情報共有した内容を記します。（発表順）

所属館園	発表 学芸員	展示方法	展示に便利な ツールなど
新冠町郷土資料館	新川	・説明、写真パネル、キャプション（木の枝と針金を使ったもの）製作方法	ハレパネ、針金、光沢紙、上質紙など
紋別市立博物館	春日	・昆虫展での昆虫を模した切り紙 ・標本が倒れないようにひつつくもの	コマンドタブ
小樽市総合博物館	佐藤	・表示板や資料を立てかける手製の斜台	スライド丁番
いしかり砂丘の風資料館	志賀	・小さな化石資料の入れ物 ・漂着物を袋ごとに入れ、ポップアップで表示	木製インテリアフレーム（ダイソー）
富良野市博物館	澤田	・大型写真のプリントアウト～ロール紙に印刷してつなげる。 ・ペーパークラフトで模型を作り吊り物にする ・常設展では、アルミ複合板を使う。	アルミ複合板（ハレパネのようだが反り返らない、しかし価格が高く、固い）
北網圏北見文化センター	柳谷	・吊り物展示	テグス、S カンやヨリモドシ、ゼムクリップでくくりつけ
沙流川歴史館	森岡	・アクリル板を使用した展示ケース	アクリル板同士はキューブ上の金具でとめる
根室市歴史と自然の資料館	外山	・樹洞カメラ～中の様子を写す	
苫小牧市美術博物館	小玉	・パネルと紙はスプレーのりで貼る ・自然をあらわす簡単なジオラマ	ササの葉、綿など
ピリカ旧石器文化館	宮本	・イラストレーター、フォトショップなどのソフトを使う。 ・長尺プリンターで大型説明パネルを作る	「ミュージアムの学びをデザインする」参考書籍
厚真町教育委員会	奈良	・レーザープリンタ光沢紙で印刷したものを、あえてハレパネに貼らずそのまま展示 ・説明パネルをファイリングし、図録がわりとする（報告書では内容が難しいため）	
新ひだか町静内郷土館	斎藤	・地図解析ソフト（カシミール3DやQGIS 無料ソフト）の使用	
三笠市立博物館	栗原	・ハレパネを箱状に組み合わせ、インテリアを作る ・化石展示回転台	ハレパネ、ソーラー回転台（ネットで 700 円）
HCC	安保	・音声画面ガイドタブレット	
北海道開拓記念館	会田	・説明文をハレパネに入れず、ファンシーパネルへ	ファンシーパネル

帯広百年記念館	内田	<ul style="list-style-type: none"> ・動画は自前で製作 (MacでiMOVIEソフトを使用) ・パネルを貼るとき、ピンの頭をとって針をパネルにさす ・湿気とりビーズ(調湿ビーズの使用) ・パネルたてはブックスタンドを使用 ・ひっつき虫(ブルタック) ・ピンタッカー ・粘着テープ(エアーキャップ用) ・矢筈やマジックハンドを使い、高いところにかける ・レーザー墨出し機(絵画の展示などで、壁に平行線をレーザーで出す。7000円くらい) 	<p>レーザー墨出し機、ブックスタンド、ブルタック、ピンタッカー、粘着テープ(エアーキャップ用)、矢筈、マジックハンド調湿ビーズ(アートソープ)</p>
---------	----	---	--



研修のコーディネーターをされた内田学芸員(*元帯広市百年記念館)からのコメント

博物館での展示は、見学者にいかにわかりやすく、楽しく見学していただけるかが基本だと思うのですが、それに加えて、全体に統一感をもたせること、あるいは資料にいかにダメージを与えないようにするかなど、さまざまな創意工夫が必要になります。

今回の研修会「展示ディスプレイ活用法～身近なもので工夫しよう」では、いくつかの博物館で実際におこなっている展示ディスプレイについて紹介いただきました。お金が無いなかで、どうしたらおもしろい展示ができるか？が暗黙のテーマでしたので、それはそれは涙ぐましい努力がにじみ出た発表でした。そのためいろいろと皆さんの参考になったのではと思っています。

私が個人的に興味を持ったのは、いしかり砂丘の風資料館でおこなっている「標本を100円ショップの額で飾る」でした。ただ、一番うけていたのは三笠市博物館の栗原さんが持ち込んだ太陽電池で回転する展示台でした(あの台って結局誰のところにいったんでしょう?)。この展示台はネットで購入したとのことでしたので、いかにおもしろくて、しかも安い展示グッズを入手するかも学芸員としての腕の見せ所になってくるのかもしれない。

***内田さんは平成26年度より、文化庁文化財部伝統文化課で勤務されることとなりました。**

平成 26 年度 北海道博物館協会 学芸職員部会総会・研修会

開催いたします！！

☆平成 26 年度 研修会について

八雲町公民館で 9 月 18 日（木）に開催される平成 26 年度の研修会についてご案内します。

①歴史分野技術研修「石器をつくる～たった一つの石器からはじまる総合的な学習～」

◆講師：宮本雅通 氏（今金町ピリカ旧石器文化館学芸員）

◆研修内容

本研修は、ワークショップをどこまでこだわれるのか、ピリカ旧石器文化館で展開されている事例を体験しながら学びたいと思います。ピリカ旧石器文化館では、単に石器をつくるだけで終わらせるのではなく、石材から矢じりをつくり、これを矢に固定し、実際に発射するところまで体験できます。その工程や使用する道具にはすでに明らかになっている考古学的成果を用い、材料に使われているものの自然史的な特徴についても解説を加えることで、単に石器を作るだけにとどまらない深みのある体験ができます。

また、本研修に参加していきなり石器づくりを教えることができる域に達することは難しいと思いますが、専門の学芸員を呼んで石器づくり体験を行う場合の運営支援のポイントについても言及しますので、様々な分野の方にご参加いただければと思います。

②展示分野技術研修「文化財のデジタル記録とその活用」

◆講師：川嶋稔夫氏・木村健一氏（公立はこだて未来大学教授）

◆コーディネーター：奥野進 氏（市立函館博物館学芸員）

◆研修内容

本研修では、デジタル記録やデバイスを活用した展示例や展示案を参加者が持ち寄って報告し、会員相互の意見交換およびディスカッションを行います。まず、ひとつの例として、公立はこだて未来大学と市立函館博物館が共同で取り組んでいるデジタル技術による文化財情報の記録とその活用について、市立函館博物館の取り組みと、道南ブロック博物館施設等連絡協議会で検討している内容について紹介する予定です。その後、参加者同士で自館園等の展示例・案を発表し合って情報共有するとともに、講師の先生方から技術的なアドバイス等を頂く機会とします。

（この研修は事前に各会員の取り組みを報告頂くことから、申し込み後、事務局から依頼連絡があります）

☆エクスカージョンについて

翌日の 19 日（金）には、エクスカージョンを行います。八雲町の八雲地域は、1878（明治 11）年から開始された尾張徳川家による旧藩士族移住から本格的に開拓が行われていきます。今回は、開拓の中心となった「徳川農場」内を徒歩で巡ります。1885（明治 18）年に建てられ、補修されながらも現役で使われている板倉や、木彫り熊に関するスポットを巡ります。

ようこそ！学芸職員部会へ！

今年度、学芸職員部会に加入し、研修会・総会に初参加されたみなさんを前号に引き続きご紹介します！
(50音順)

高橋 史弥さん（三笠市立博物館）

新たに学芸職員部会に加えていただきました高橋史弥と申します。

今回の研修会では、自分の専門とは異なる分野の、自然史分野「石の標本箱をつくる」に参加させていただき、岩石の加工について学ばせていただきました。現在の博物館などの施設は、少人数で、色々な要望に応えなくてはならない手前、専門分野以外の知識を蓄積しておくのと、とっさの対応にも活かせるのではないかと思います。そうした点で、こうした、様々な地域・分野の方と切磋琢磨し、情報を交換できる場は貴重なものだと認識いたしました。

もちろん、一人で様々な要望に対処するというのには限界があります。大規模な交流会では、広い北海道の中の、色々な分野の方々と交流させていただきました。こうした交流と情報の交換によって、来館者の多岐にわたる要望に対応できる仕組みが生まれていくのだと思います。また、北海道全体の様子を一人で見えていくのには、困難を伴いますが、交流により、広い視点で北海道の自然や文化を展望できるようになるのではないかと思います。

私は、民俗学の葬送文化を、本州から北海道へやってきた人々の移住定着の視点から研究しています。広い北海道では、地域によっても、時代によっても、そこでの生活は異なってきます。私のいる、三笠という町だけで見ても、時代や生業によって生活は大きく異なってきます。それは、色々な地域からやってきて、一つのコミュニティを形成した炭鉱労働を中心とした人々の文化。特定の地域から団体で移住し、コミュニティを形成した農業を中心とした人々の文化があるからです。北海道の文化を知るには、先住していた人々も合わせて、広い視点から展望しなくてはならないと思っています。

そんな中で、皆様の地域にもお邪魔し、調査させていただくことがあるかと思いますが、その折はよろしく願いいたします。

今後ともなにとぞよろしくお願いいたします。

田口 尚さん（公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター）

正会員としては、はじめての参加となりました。今後とも宜しく願いいたします。

今回は、日頃から連絡を取り合っている方々も多く、懐かしい顔も数名見られました。アポイの素晴らしい自然の中、和やかな雰囲気の中で研修が進んだと思っております。

実務研修は、業務の関係でかんらん岩と蛇紋岩のサンプルがほしくて、岩石標本作成を選びました。野外での資料採集作業は、懐かしくもあり、楽しいひと時でした。特にフレッシュな加藤学芸員の石質説明は、丁寧で理解しやすく、参加者も質問をしやすかったようです。採取した岩石標本は、かんらん岩研究の世界的な権威でいらっしゃる新井田先生が自ら指導されました。恐る恐る岩石研磨機や岩石カッターで荒削りし、ヤスリや耐水ペーパーで資料観察面を鏡面研磨する手順を、実践しながら楽しく学ぶことができました。ステンレス製の大型板状ヤスリなどがホームセンターで購入できるなど、お手軽情報も満載でした。

研修会場に戻ると展示技術研修の情報交換が活発に続いており、安価で入手可能な日用品で、

展示資料にインパクトを与える手法などが披露され、大変に参考となりました。いずれも早速、活用しようと思っております。

情報交換会が始まると同時に、各施設のフレッシュさんが一斉に名刺交換する姿を見て、ひと昔前に北海道教育委員会で主催されていた「文化財職員担当者等研修会議」を思い出しました。全道の市町村教育委員会の文化財や博物館職員が道庁に集まり、老いも若きも文化財保護法や最新の文化財行政について研修し、活発に意見交換するものです。現在では道博協総会や学芸職員部会が、これに代わるネットワークを担っているのだと思っております。ところで、道教委には博物館行政を統括する文化財・博物館課と言う部署がありますが、その中に会員の方が何名いらっしゃるのでしょうか。

私は現在、考古学関連技術のひとつとして「保存科学」を専門としております。これまでに北海道開拓記念館をはじめ、各地の博物館や資料館の展示資料作成や標本作りにかかわらせていただきました。部会ホームページ画像の富良野市博物館活断層剥ぎ取り標本も、そのひとつです。動植物標本作成には真空凍結乾燥機（FD）を用いてのお手伝いも可能です。この機器は水害や火災のレスキューにも活用可能です。また、博物館法改正、資料の収蔵保管環境、総合的病害虫管理（IPM）にも取り組んでおりますので、微力ながら北海道の文化財保護と資料活用のお手伝いができればと考えております。どうぞお気軽にお声掛け下さい。

最後に、会場設営から情報交換会の細部にまで、お気遣いいただいた様似町教育委員会の皆様の「お・も・て・な・し」に感謝・感激でした。ありがとうございました。事務局の皆様、連日、本当にご苦労様でした。

田村 裕之さん（様似町教育委員会）

学芸職員部会の皆さん、はじめまして。

私は、今年の学芸職員部会研修会・総会でお世話になった様似町の田村と申します。現在、様似郷土館には悲しいことに学芸員がおりません。もちろん私も地元の歴史愛好団体に属してはいるものの、全くの素人さんです。なので、先日の総会後の交流会などで参加された皆さんとお知り合いになれたこと、この会に入会できたことを非常にうれしく思っています。今後、郷土館のことなどでわからないことがあれば、バンバンお聞きしますので、居留守など使わず、教えてください。よろしく願いいたします。

ところで、初めて参加させてもらった研修会・総会は“すごかった”の一言でした。研修会の素晴らしさは、他の記事があると思うので割愛しますが、前夜祭（？）から隣町で熱く長い夜を過ごされ、その熱量を維持したまま研修会を乗り越え、そしてまたフルスロットルで交流会に突入し、他の宿泊客から苦情が出るほど盛り上がっていく…。缶やコップを片手に熱く語る皆さんの背中がずいぶんまぶしかった気がします。私もコップ片手に夜遅くまで語り合えるよう、知識の習得に励んでいきたいと思っております。よろしく願いいたします。

外山 雅大さん（根室市歴史と自然の資料館）

はじめまして、今年度から根室市歴史と自然の資料館の学芸員になりました外山雅大と申します。専門は鳥類生態学で対象動物は瞳がかわいい『夜の狩人・フクロウ』です。博士課程から研

究員時代にかけて、『南の島・沖縄のやんばるの森に暮す、リュウキュウコノハズクとオオコノハズク種間競争』や『札幌近郊の野幌森林公園で外来種アライグマによる樹洞の利用がフクロウの営巣樹洞を奪う可能性があるか？』などを研究し、南へ、北へ、大好きなフクロウを追いかけて飛びまわっていました。

そして今年、世界最大のフクロウ、シマフクロウの暮らす、道東、根室の地に学芸員として着任し、長年の夢であったシマフクロウの調査・研究に携わっています。また、シマフクロウをはじめとする生き物たちの面白さや不思議を地元で暮らす子供たちをはじめ、多くの方々に伝えていくというやりがいのある仕事に就けて、毎日ワクワクしています。学芸員としてはまだまだ駆け出しですが、シマフクロウに限らず、野生生物の生態や暮らしを、面白く、楽しく伝える事の出来る道東一の自然史・学芸員を目指して頑張ります。

奈良 智法さん（厚真町教育委員会）

学芸部会の皆様はじめまして。近隣の先輩学芸員から紹介を受け、道内各地の学芸員の方々と交流を深める意味でも自分にとってプラスになること間違いのないと思い、はじめて北海道博物館協会学芸職員部会の研修会に参加させて頂きました。私は大学を卒業してからずっと埋蔵文化財（遺跡発掘調査）の仕事で浦河町、札幌市、岩内町、富良野市、厚真町と各市町村で仕事をさせて頂きました。厚真町は平成16年から働き、縁あって平成24年に正職員として採用されました。現在も厚真町教育委員会社会教育グループに所属し、厚幌ダム建設に係わる埋蔵文化財発掘調査事業に従事しています。

私の参加した研修は「展示ディスプレイ活用方法～身近なもので工夫しよう」で、各市町で実際に行っている展示方法を紹介しながら討論していくものでした。皆、少ない予算で小道具を駆使していましたが、中でも面白かったのは、「ソーラーで回転する台」でした。これだと壁側においても全体を見ることが出来るし、動きのある展示物があることによって展示に強弱が付けられるなと感心しました（残念なことは100円では買えないことでした...）。私は展示パネルのほか発掘ならではの遺跡から土ごと切り取って来た展示方法も紹介しましたが、今回紹介された大型パネルやペーパークラフトを用いて小さい子供たちにもより興味を惹く展示作りを目指したいと思います。

厚真町には現在、博物館や郷土資料館はありませんが、将来の開館にむけてとても勉強になりました。

宮地 鼓さん（苫小牧市美術博物館）

みなさま、はじめまして。学芸職員部会新メンバーの宮地 鼓です。専門は古生物学、海洋生物学です。貝殻やサンゴ骨格などにみられる成長縞と殻の生物地球化学分析（酸素炭素同位体比や微量元素組成比）から、年齢などの生態や、海水温や塩分など生息場の環境情報を知ることができます。現在は、北海道を主なフィールドとして、現生二枚貝類、白亜紀から完新世まで化石貝類を対象として、幅広い時代における日レベルの環境復元とそれに対する生物の応答様式の解明に関する研究を進めています。中でも、北海道には考古遺跡も多くあり、それらより出土した貝殻試料を用いて当時の気象・気候を復元し、ヒトの生活や文明との関わりについて明らかにし

ていくことを目指しています。道内各地からの現生・化石貝殻試料を収集しておりますので、みなさまからの情報をぜひお待ちしております。

学芸部会の研修会・総会へは初めての参加でしたが、道内各施設の学芸員と交流や情報交換を行うことができました。若手学芸員の参加も多く、今後の博物館活動、学芸員間での連携などの議論を行い、大変有意義でした。また、研修会では、有用なグッズの紹介など、当館でもすぐに活用できるアイデアも多くあり、参考にさせていただきたいと思います。

最後になりましたが、当館は7月に“苫小牧市美術博物館”としてリニューアルオープンしました。複合施設として、博物と美術がコラボレートした新しい活動なども計画しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

求む！コラムリレー執筆者

現在、部会 HP「集まれ！北海道の学芸員 (<http://www.hk-curators.jp>) 上で、コラムリレー「学芸員お勧め！秘蔵品のモノ語り」を開催中です。

博物館に保存されている、もしくは学芸員の扱う資料の中には、学術的価値が高いとは必ずしも言えなくとも、その資料にまつわる歴史をひもとくと地域の歴史や自然を考える上で貴重なものが存在します。このコラムでは、そういった普段あまり知られていない資料の「モノ語り」をご紹介しますことで、モノを保存することの大切さと楽しさを皆様にお伝えしたいという趣旨で実施しています。

すでに多くの会員にご参加頂いているところですが、全ての会員にご参加いただきたいと思います。

エントリーは随時、三笠市立博物館の栗原事務局次長 (kurihara582@city.mikasa.hokkaido.jp) で受け付けていますので、ご応募お待ちしております。

編・集・後・記

部会ニュースを3人で編集してから2号目となります。

内容は前81号から引き続き、平成25年度に開かれた研修会「展示技術研修」での成果や、新会員の紹介をさせていただきました。あわせて、9月18～19日に予定している平成26年度の研修内容を載せています。

八雲町で皆さんと会えることを楽しみにしているとともに、ニュース内容についてのご意見やご要望がございましたら、お気軽にお寄せいただければと思います。

【編集担当】

会田 理人（北海道開拓記念館 〒004-0004 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2）
Tel 011-898-0456 / Fax 011-898-2657

斉藤 譲一（稚内市教育委員会 〒097-8686 北海道稚内市中央3丁目13-15）
Tel 0162-23-6518 / Fax 0162-22-7913

新川 剛生（新冠町郷土資料館 〒059-2402 北海道新冠郡新冠町字中央町26番地）
Tel/Fax 0146-47-2694